

# 進路だより

目指せ！2次試験号  
平成30年1月22日発行  
福島県立郡山高等学校進路指導部

センター試験の約1か月半後には、個別学力検査が控えています。この試験は、センター試験とは形式が異なるため、頭を切り替えることが必要になります。合格に向けて先輩たちの合格体験記を読んでみましょう。

## ここからが正念場！ ～国公立大学前期試験まで1ヶ月～



センター試験という大きな山を越えたと思ったら、次にそびえる山また山…。自己採点の判定を見て、その山の高さに愕然としている3年生も少なからずいると思います。

でも、その山の頂上に登ったら、そこからは君たちの夢が、希望が見えてくるはず。そう信じて頑張りましょう！夢をあきらめずに、希望山脈に向かって前進あるのみ。最後まで粘り強く取り組みましょう。文武両道の真価を発揮するときは、ここからです。

**君たちの先輩も、苦しさを乗り越えて栄冠を勝ち取りました。**

(過去の「合格体験記」から一部抜粋)

### 福島大学 人文社会学群 行政政策学類 (前期日程)

行政政策(福大)の小論文が他の大学のそれと大きく異なるのは、問題形式が全て「要約」である点です。(厳密には前期にはこれがあてはまりますが、後期は最後の問題に自分の意見を答えるものがあります。)要約においては、読書感想文などに求められる「自分の意見」というものは寧ろタブーであり、ひたすらに出典の著者の意見をまとめなければなりません。まずは赤本を確認し、過去問の課題文の出典の新書を実際に読んで、長い文章を読む練習をします。本屋で買う他に、学校の図書館にも新書はありますし、ジュニア新書という比較的読みやすいものもあるので、出題の分野にあったものを借ります。

実際に要約文を書くときは、まず課題文を読む前に問題をチェックし、最終的に何を説明すればよいのかという方向性を確認しておきます。課題文を読むときは、重要な文章に印をつけるなり、メモ紙(なければ余白)に抜き出したりします。このとき同じ内容の文章を見つけていたら、より印象の強い方を引用すると良いでしょう。課題文を読み終わったら、いよいよ要約文を書いていきます。その際これは最も重要なことですが、先程も述べたように、必ず要約文の着地点は問題に沿ったものにしてください。大学の出題に正確に応えるということが大前提ですので、これができていないと大きく減点されてしまいます。また、課題文にないような意見(要するに自分の意見)を文章に組み込むことは絶対にしないでください。

### 福島大学 理工学群共生システム理工学類 (前期日程)

たとえそれまでの模試やセンター試験でA判定をとろうが、慢心はいけません。二次試験で逆転される人だっています。裏を返せば、センターの点数が思っていたより低くても二次試験次第で合格を掴み取ることで出来た。センターから二次試験(前期)まで1ヶ月と少しの期間があります。ここが勝負の分かれ目です。二次試験は如何に部分点を稼げるかで合否が分かれることもあります。最後まで諦めず問題に挑んで下さい。

### 宇都宮大学 教育学部 学校教育教員養成課程 学校教育・特別支援教育 (前期日程)

センター試験が終わると、約30日後には前期試験です。私の受けた宇都宮大学の学科・課程は、国語、数学、英語のうちどれか一つを受験するという形式でした。私は、得意な数学を受けることにしました。自由登校になってもいつも通り8時には学校に来て課外に出て、チャートと赤本と課外でいただいたプリントを何度も何度も解き、18時20分の放送がなる頃くらいまで学校で自習しました。そして数学の先生の所に毎日のように通って、分からない所がなくなるようにしました。約30日間、これでもか!というくらい数学をやっていました。試験は例年とほぼ変わらない傾向でした。90分で大問4題を解くため時間に余裕があり、見直しをする時間がたくさんありました。今年度変わらなかったという事は、来年度変わる可能性が大いにある、という事です。もし私と同じ大学、学部、課程を受けるつもりの方がいらしたら、気を付けてください。

### 福島県立医科大学 看護学部 看護学科 (前期日程)

思い返すと、自分自身の高校3年間はどうなつらくても文武両道を極めようとしてきたように思います。最終的に妥協しなかったこの姿勢が大学合格につながったのだと思っています。また、部活でうまくいかなくて辞めようと思いついて鬱になりかけたことも、得意な英語をセンターで大失敗したことも、二次試験直前に英単語をとにかく書き続けて腱鞘炎になったことも、合格した今振り返ると何一つ無駄なんて無かったように思います。平坦な人生ほどおもしろくないことなんてない!そう思って、目の前の壁にぶつかって行ってください。ぶつかって悶えるのもまた青春です。どうか、負けないで!

### 会津大学 コンピュータ理工学部 コンピュータ理工学科 (前期日程)

二次試験についてです。二次試験は共通して数学と英語があります。

数学は基本的な問題しか出ません。しかも記述式問題は二題しかなく、他は穴埋めです。計算ミスが多い人は特に注意して計算しなくてはなりません。問題形式はあまり変わらないので出やすい分野から勉強していくと効率よく勉強できると思います。特に数学的帰納法は確実に当ててください。この分野は記述式ですが書き方にパターンがあるので、何度も解いて先生に添削してもらった方が良いでしょう。

英語も基本的な問題です。しかし、少し癖があります。ほかの大学と比べて与えられる英文が短い。短いから簡単というわけではなく、一つ一つの単語をしっかりと把握する必要があるため単語力が必要となってきます。EG4500で対応できるのでしっかり暗記した方が良いでしょう。長文問題も英文は短いですが、問題量が多いです。しっかりと内容を把握できるようにして何の話をしているのか、何を伝えたいのかをとらえることが重要です。

国公立の前期試験は二月下旬にあります。その前には私立の試験は終わっていて周りの人は大学を決めていくので学校にいる人は次第に減っていき、焦りと不安と嫉妬で押しつぶされそうになり、とても辛かったです。そこで切磋琢磨しあえる仲間とともに勉強するとモチベーションが保てられます。毎日同じ教室で同じ大学を目指している者同士で勉強しました。たとえC判定やD判定であってもあきらめないでください。センター試験が理科一科目で受けられる会津大学は、センター試験と二次試験の比率は1:4なので二次試験で挽回できます。私もC判定とD判定の間でしたが、最後まであきらめずに必死に勉強し、合格を勝ち取ることが出来ました。あきらめなければ努力は報われます。皆さんの健闘を祈っています。

### 高知大学 農林海洋科学部 農林資源環境科学科 (前期日程)

まさか自分が高知大学に進学するとは、高校入学当初はまったく想像もしていませんでした。なぜなら、最終的にこの大学を受験しようと決めたのは、センター試験後の三者面談だったからです。それまで、この大学のことは話題にも出ていませんでした。ですが、結果的にこれが私の進むべき道であったのだと今は思います。

合格への楽な道のりを選ばず、辛いけど困難な道を選んだほうが自分の実力は確実に上がると思います。センター試験から二次試験までの一ヶ月でも、まだまだ挽回は可能だと思います。間には私立大学の入試を挟むことになるので、その対策もしなければなりませんから実際なかなか大変ではありますが、体調管理もしっかりして最後の最後まで諦めないでやり通してください。

### 福島大学 人文社会学群 人間発達文化学類 文化探求専攻 (前期日程)

タイトルにある言葉“In the Middle of Difficulty Lies Opportunity.”の紹介をしたいと思います。これはアインシュタインの名言で、倒置が使われていますが、「困難の中にこそチャンスはある。」という様な意味です。私はよく部活動や受験勉強の時、この言葉に励まされていました。辛いことや努力の先に必ずしも成功が待っているとは限りませんが、それを体験しない人には成功するチャンスは巡って来ません。今辛くてもいつかきっとそれが自信になったり、何かしらで役に立つ時が来ます。最後まで頑張り抜いて下さい。応援しています。

### 福島大学 人文社会学群 人間発達文化学類 人間発達専攻 (前期日程)

受験校の選定についてです。私は、親と話し合っただけで私立大学を受験しないことに決めていました。そこで、公立大学の独自日程をうまく利用して国立大学と公立大学だけに出願しました。もし、家庭の事情などで私立大学には行けないと考えている方がいたら、公立の大学の独自日程を利用して受験してみるのもよいと思います。このように、私立大学を受けない受験の仕方もあるのでぜひ考えてみてください。しかし、国公立大学は、私立大学よりも試験や合格発表の時期が遅いです。周りの人が、進学先が決まっていく中で不安になったり、自信がなくなってしまったりすることもあると思いますが、最後まであきらめずにがんばれば大丈夫だと思います。

### 福島大学 人文社会学群 行政政策学類 (後期日程)

わたしは前期に新潟大学を国語と英語で受験し、後期は福島大学を小論文で受験しました。二次試験はセンター試験と違って記述式なので、誤魔化しは一切通用しません。如何にして採点者に採点してもらえる「日本語」を表現するか。これが重要だと受験を通じて学びました。二次試験の対策としては前期の国語は評論の要約と問題演習、英語はとにかく国立大学などの長文を片っ端から読んで問題を解いていき、英作文も先生に添削してもらいつつ受験に臨みました。前期が終わってからは、一喜一憂せずにすぐに後期試験の対策をしました。他の人たちがもう大学が決まっている中、学校で黙々と対策していたので、その気持ちを一言で表すと「苦」でした。さらに、あんなに対策をしていたのにも関わらず、前期が不合格になり精神的にも追い詰められていました。しかし、嫌がおうでも気持ちを切り替えて後期試験に臨みました。部活動で培った気持ちの切り替えがここで生かされた感じがしました。勉強、大学のことはやはり先生方に質問するのが一番です(笑)